

筑波大学新聞

第316号

編集責任 筑波大学新聞 編集代表 福原直樹
TEL: 029(853)2040-6699
E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所 筑波大学 茨城県つくば市 天王台1-1-1

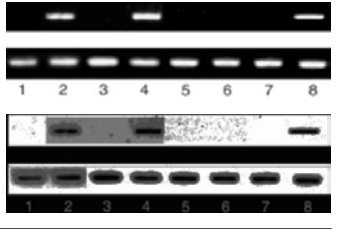
紙面から

2	漢類でレアアース回収	葦田助教の研究
3	垣根涼介さん半生を語る	小説家
8	リーグ戦11位浮上	サッカー
9	永瀬団休戦で優勝	柔道世界選手権
10	「アンネの日記」寄贈へ	学生団体A・L・S
11	「起業するならつくば」	ビジョン
5	筑波大学新聞40周年 OBOGインタビュー	三特集
6,7	特集 留学生4500人への道	特集

責任著者改ざん見逃す

筑波大研究不正 経緯 理研と酷似

筑波大学生命環境系の研究室でDNA研究などの論文のデータ改ざんが発覚し、7月、男性元教授、女性元講師に論旨解雇相当などの処分が出た問題で、研究室のデータ管理が改ざんした人物が特定できないことや、論文の責任著者の男性元教授は改ざんには関与しなかったものの、それを見逃していたことなどが筑波大の調査報告書(約60ページ)でわかった。これらの経緯は理化学研究所で起きたSTAP細胞に関する研究不正に酷似。筑波大は再発防止に全力を挙げている。(新田萌夏 社会学類2年、山野辺拓実 同1年、2面に「記者の目」)



上:論文に掲載された改ざん画像、下:同画像に見られる切り貼りなどの加工の跡

不正は外部から指摘され、大学は12年5月、調査委員会を設置、今年3月に調査報告書をまとめた。切り貼りがされた4画像のうち1つは、元講師が改ざんしたと認定。だが、残りの3画像の改ざん者は特定できなかった。調査に携わった三明康郎副学長(研究担当)によると、当時研究結果を示す4画像は、画像の切り貼りが行われていた。また、同委員会が調べたところ、実験で得られた論文の一部が盗用された

つくば市 春日4丁目に街灯設置へ

協議会はメンバー拡大

街灯がなくて深夜、路上わいせつ事件(暴行を含む性的嫌がらせ)が頻発している。つくば市が今年度中に複数

つくばに街灯を



く動き出した。(平嶋健人 社会学類3年)

つくばに街灯を

め夜極端に暗く、昨年、女性を狙った事件が急増、筑波大生や自治体から街灯設置の要望が高まっていた。これをきっかけとして、7月ごろから設置を検討、両大学と協議していた。計画では筑波技術大の周辺歩道に複数の街灯を、筑波大の西側や、近くの交差点に「ハイウェイ灯」(高さ約10m)と呼ばれる照射範囲の



8月30、31日につくばセンター周辺で開催された「まつりつくば」。街が暖色の夕闇に包まれるころ、暖色光を放つねぶたが、力強く、参加者の熱気と共に過ぎ去っていった。(小野憲司=社会学類)

教育再生実行会議で評価

国際日本研究専攻



国際日本研究専攻のロゴマーク。来年度から内容を拡大させて開講される

首相の諮問機関である「教育再生実行会議」で9月、筑波大学大学院が来年度から内容を充実・拡大させる開講する「国際日本研究専攻」(人社研究科)が「日本的価値観について、世界の理解と関心を呼ぼうとするプログラム」と最大限の評価をされていたことがわかった。筑波大では9月から同専攻の募集を開始しており、定員は博士前期、後期プログラム計44人を予定している。

日本研究の発信拠点目指す

同会議は、いじめ問題やグローバル化に対応する教育などの審議を目的に、昨年発足。首相、官房長官、文科相と有識者で構成され、過去25回開かれた。特にグローバル化問題では、大学に対し海外キャンパス設置や英語授業の推進などを提言してきた。

筑波お話し

筑波大学新聞は創刊40周年を迎えた。創刊当時の編集代表、鈴木博雄氏は創刊の辞で「新聞の自由とは批判の自由」と書いた。批判精神を貫き、大学文化の担い手となる。その信念は今も変わらない。同じ40年前の1974年、米共和党のニクソン大統領が任期途中で辞任した。発端は72年に民主党本部で起きた侵入事件だ。対立する民主党の情報を探ろうと、大統領側が盗聴器の設置を画策。事件の全容をワシントンポスト紙が地道な取材で報じ、大統領を辞任に追い込んだ。ウォーターゲート事件だ。▼事件を追ったのは同紙の若手記者、ウッドワードとバーンスタインの二人。数々の圧力にも屈

東京の講義の文字起こし ネットを通じ筑波から

障害学生への支援体制 拡充

聴覚や視覚、運動機能などに障害のある筑波大学生への支援体制の整備が進んでいる。障害学生支援室では3月以降、東京キャンパスで学ぶ聴覚障害学生のために、筑波キャンパスの支援者がインターネットを通じて、講義内容を文字起こすなどの情報支援を行う「遠隔地情報支援システム」を整備。本部棟前には3月、横断歩道を渡る人をセンサーが感知し、電光掲示板で車に注意を促す支援システムが設置されたが、6月にはその改良を行った。竹田一則障害学生支援室長(人間系・教授)によると「筑波大の障害学生在籍数は増加傾向にあり、さらに支援体制を充実させていく」方針だという。

(添島香苗 生物学類2年)



東京キャンパスの講義を文字起こしする筑波キャンパスの支援者=竹田一則障害学生支援室長提供

聴覚障害のある学生が授業を受ける際は通常、隣で講義内容を要約してパソコンに文字を打ち込む専門の支援者が必要だ。だが、これまで東京キャンパスには訓練を受けた専門の支援者が常駐しておらず、聴覚障害のある学生への支援が十分ではなかった。

これを受け同支援室では3月、東京キャンパスに遠隔地情報支援システムを設置した。東京キャンパスで行われる講義の映像を、筑波キャンパスの支援者に中継。映像を見ながら支援

者がパソコンで講義内容を文字起こすと、インターネット経由でその内容が東京キャンパスの講義室のモニターにリアルタイムに表示される仕組みを整備した。同システムは、複数のキャンパスを持つ大学で、聴覚障害者の支援環境がないキャンパスが受け入れ体制を作る際のモデルケースになると期待される。

また、6月には本部棟前の横断歩道に設置された車椅子や視覚障害者、運動障害者向けの支援システムを改良した。

このシステムは交差点の四隅の柱にあるセンサーが横断者感知すると、柱の電光掲示板に「歩行者あり」などのメッセージが表示され、自動車の運転手に注意喚起するもの。今年2月に導入したが、同支援室に障害学生から「センサーの位置が分かりにくく感知されない時があり、危険」という意見が寄せられたため、横断歩道前にセンサーの感知位置を知らせる足跡のマークを新たに塗装した。

筑波大には現在約70人の障害学生が在籍。筑波大はその積極的な支援から、全国で9大学ある日本学生支援機構の「障害学生修学支援ネットワーク」の拠点校の一つに採択されている。

今後の課題は発達障害のある学生への支援だ。発達障害とは、自閉症スペクトラム障害や学習障害(LD)、注意欠陥・多動性障害(ADHD)の総称。外見では障害の有無が分かりづらいため、障害の特性に応じて履修科目や成績評価方法を検討し、調整するなどの支援が必要だ。竹田支援室長は「対人関係がうまくいかないなどの問題から強いストレスを感じ、不安や抑うつにつながる場合があるため、保健管理センターとの連携も図っていきたい」と話した。

藻類でレアアース回収 低コスト再利用に期待

藻類の一種「ガルディエリア」でレアアースを回収する研究を行う農田歩助教(生環系)らの研究が進展している。同助教らはこれまでガルディエリアで回収することが難しいとされていた条件下で、レアアースを効率よく回収することに成功。この藻類によって、鉄や銅などの複数の金属が混ざった金属性廃棄物などから、レアアースを回収する効率が大幅に向上すると期待されている。

(林健太郎 社会学類2年、写真も)

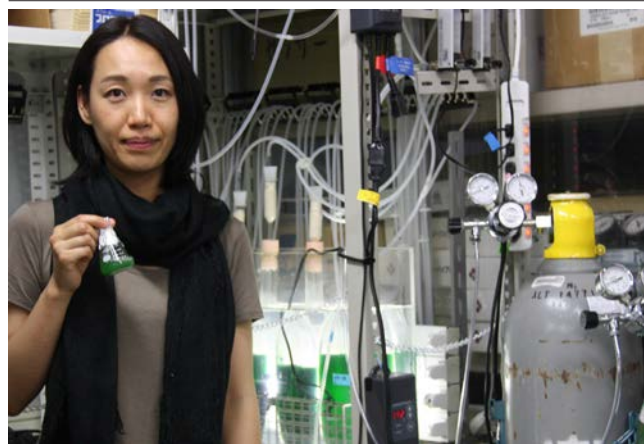
ガルディエリアは温泉の源泉付近に生息する藻類で、銅などの金属を回収することが知られていた。今回の実験では、レアアースを回収することが特に難しいとされてきた環境

にガルディエリアを置き、5つの条件で培養。それぞれについてレアアースの回収率を比較することで、レアアースを効率よく回収する条件を見つけた。ガルディエリアがレア

用いられている自動車のモーターなどから、レアアースを完全にリサイクルすることは技術的に難しく、レアアースの一部を回収するためには高価な化学薬品が必要。高コストになる問題があるため、日本では現在、少なくとも600億円相当のレアアースがリサイクルできないまま廃棄されている。

農田助教は「実用化にはまだ遠いが、なぜガルディエリアがレアアースをはじめとした金属を回収できるのかを明らかにし、社会の役に立ちたい」と語った。

レアアースはスカンジウム、ランタンなどの希少な元素。省エネ家電製品



藻類の一種からレアアースを効率よく回収することに成功した農田助教(9月8日、総合研究棟Aで)

や、ハイブリッド車などのモーターで使われる磁石の性能を高めるために不可欠な元素で、近年その需要が高まっている。

学長選考会議 「改革推進する」

永田学長が再任

筑波大学は9月26日、任期満了に伴う学長選考会議の結果、永田恭介学長を再任したと発表した。任期は来年4月1日から4年間。永田学長は2012年8月に脳梗塞で倒れた山田信博前学長の後任として、13年4月に現職に就任。「国際性の日常化」などを掲げ、さまざまな改革を行ってきた。国際化の推進や、筑波大の研究者への支援の拡充などが評価され、再任が決まった。

永田学長は「2年間で、思ったことの半分しかできていなかった」「筑波大を世界に通用する大学にすべく、粘り強く努力したい」と語り、また、「時代の流れは早く、ボトムアップでは間に合わない。トップダウンの改革を推進していくつもりだ」と意気込みを述べた。

選考会議の河田一則議長は、記者会見の場で「永田氏の公約は明快で説得力があった。(筑波大は)今後大きな発展を遂げる」と確信している」と語った。

永田学長の経歴は以下の通り。

1953年生まれ。東京大学大学院薬学研究所博士課程修了。専門は分子生物学。国立遺伝学研究所助手、東京工業大学助教授を経て、2001年に筑波大教授に。昨年4月より現職。(平嶋健人、写真も)



再任が決まり、意気込みを語る永田恭介学長(右)と河田一則議長(9月26日、大学本部棟で)

不正論文画像の加工横行 「不正」と自覚せよ

記者の目

1面から続く

筑波大学生命環境系で発見した研究不正は、今年大きな問題となった理化学研究所での研究不正との類似点が目立つ。2つの事例は日本の研究体制のひずみを表しているのではないかと。今回の筑波大の不正では、論文の研究画像の切り貼り(改ざん)が表面化したが、筑波大のある研究関係者は本紙に、「実験レポートなどで画像の切り貼り

などの加工をしている学生は多い」と語った。一方、理化学研究所での不正では調査対象となった研究者だけでなく、不正を調査した調査委員会の委員長も、自らの論文で画像の切り貼りをしていたことが判明している。日本の研究現場でこうした加工が安易に行われているのは間違いない。まず重要なのは、改ざんという加工が「不正」にあることを研究者が自覚することだ。そのうえで研究費が少ないため、その獲得のために功を急いでしまう

「論文受理報告書」の提出を義務付ける。個々のデータの責任の所在を明確にするのがその目的で、それは改ざん防止につながるはずだ。一刻も早い運用を望みたい。

STAP細胞の不正問題で、理化学研究所の信頼は失墜した。筑波大の不正の場合、論文の内容は正しいことがわかったが、やはり筑波大に対する信頼は大きく損なわれた。不正防止対策の確実な実行が信頼回復への第一歩だ。(新田明夏 社会学類2年)

催事

管弦楽団第76回定期演奏会

筑波大学管弦楽団第76回定期演奏会(葛飾公演)が10月13日(日)に、かつしかシンフォニービルスモークホール(東京都葛飾区)で開催される。指揮者に東京交響楽団の指揮経験を持つ田中一嘉さん、バイオリン独奏に東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターの三浦章宏さんを迎え、エクトル・ベルリオーズ作曲「序曲」「リア王」作品4、マックス・フルツ作曲「バイオリン協奏曲第一番」短調作品26、セルゲイ・ラフマニノフ作曲「交響曲第2番」短調作品27を演奏。午後0時45分開場、午後1時30分開演。チケットは全席自由で1000円。問い合わせ Info.tsukuba@gmail.com

第40回筑波大学学園祭

第40回筑波大学学園祭 雙峰祭が11月1日(土)〜3日(月)に行われる。今年度のテーマは「筑波織り」。縦糸と横糸が組み合い、模様を作られる織物のように、企画団体や来場者などさまざまな人々が雙峰祭という場で交流し、筑波大学の魅力を体感してほしいという思いが込められている。

前夜祭は11月1日(土)午後4時から第二・第三エリアで開催され、今年の新企画「TSUKUBA COLLECTION」をはじめ、一般の屋外企画のほか、有志団体によるパフォーマンスや来場者参加企画などが予定されている。

本祭は2日(日)、3日(月)の午前10時から学内各所で行われる。一般企画やステージ企画のほか、学園祭実行委員会によって行われる「学園祭中継プロジェクト」や、つば市内の研究所のブースを設置する「学内研究連携企画」などがある。

学園祭の最後を飾る後夜祭は、さまざまな団体がパフォーマンスを披露するオープニングセレモニーに始まり、優秀企画を決める「雙峰祭グランプリ2014」やお笑い芸人を招いての「お笑いライブ」があり、盛大な花火で締められる。

詳細は <http://www.sohosai.tsukuba.ac.jp> (筑波大学学園祭 雙峰祭公式サイト)

投稿募集

みなさまからの「意見をお待ちしております」
e-mail shinbun@un.tsukuba.ac.jp

小説家への道 半生語る

ドラマ化された人気シリーズの山本周五郎賞「君たちに明日はない」や、日本推理作家協会賞など史上初の三冠を受賞した「ワイルド・ソウル」の著者、垣根涼介さん(昭和62年第二学群人間学類卒業)が本紙の取材に応じた。「日本中をバイクで走った」「学生時代に同人誌に載せた小説が初めての作品」……。大学での思い出や小説家としてのルーツなどを聞いた。

大学時代にも同人誌制作

変化の中での人間性描く

筑波大に入学した理由を教えてください。

高校2年のころから心理学に興味があり、当時、国公立大学で唯一心理学専門の学部を開設していた筑波大を志望しました。しかし入学後は概論ばかりで、これを延々とやるのはつまらない」と思い、一度退学届を出しました。教授に説得されて思いどまり、その後は社会心理学のゼミに所属しながら、言語心理学を独学で学びました。



小説家 垣根 涼介 さん

1966年、長崎県生まれ、48歳。2000年に「午前3時のルースター」で第17回サントリーミステリー大賞・読者賞をダブル受賞し、デビュー。代表作に「君たちに明日はない」「ワイルド・ソウル」「光秀の定理」など。

た。ストレスのかかる仕事が続きます。小説家になった経緯を教えてください。

——小説家になった経緯を教えてください。

直接的な動機はお金です。28歳の時にローンでマンションを買ったのですが、不景気が続き、当時の収入のままで破産すると分かった。生活費を稼ぐために本格的に小説を書き始めました。

初めて小説を書いたのは大学生の時です。同人誌を作っていた文芸好きの友人たちに頼まれ、ツーンリングです。筑波大に来てから1年、1年のうち3カ月はツーンリングに行きました。「時間に余裕がある時に、日本中を見て回りたい」と思い、2年生で日本一周、3年生で北海道の全ての道を通り、九州や四国の南部を走りまわりました。日本を走っていない場所は無いのでは。

——卒業後は10年程サラリーマンとしてさまざまな会社で働いていましたか。

最初に広告代理店に入社しました。週3回通勤があり、視力が半年で2.0から0.6に落ちました。

ツーンリングです。筑波大に来てから1年、1年のうち3カ月はツーンリングに行きました。「時間に余裕がある時に、日本中を見て回りたい」と思い、2年生で日本一周、3年生で北海道の全ての道を通り、九州や四国の南部を走りまわりました。日本を走っていない場所は無いのでは。

——卒業後は10年程サラリーマンとしてさまざまな会社で働いていましたか。

最初に広告代理店に入社しました。週3回通勤があり、視力が半年で2.0から0.6に落ちました。

絶対音感

バンド演奏 熱気に満ちる



山崎まさよしの「Fat Mama」の弾き語りをする菊池さん(9月20日、松美池前で)

軽音サークルの「つばきフォーク村」(以下フォーク村)とT.O.J.O.K.O.N.(以下T.O.J.O.)の合同ライブが、9月20-21日に第一エリアの松美池ステージで開催された。両団体の合同ライブは初の試み。2日間、アコースティックギターの弾き語り16人が、バンド演奏に13組が出演。昼過ぎから日没まで、会場を熱気が包んだ。アコースティックギターの弾き語りを得意とする菊池さん(9月20日、松美池前で)

つばきフォーク村は、40年の長い歴史を持つフォーク村。筑波大学に統合される前から図書情報大学の軽音部として、幅広い音楽を演奏していたT.O.J.O.合同ライブのきっかけは、T.O.J.O.がフォーク村にライブに使う機材の貸し出しを頼んだところ、フォーク村が「一緒にライブしていいかな」と誘ったことだ。弾き語りの部では多くの出演者がラフソングやバラードを中心とした、ク村が「一緒にライブしていいかな」と誘ったことだ。弾き語りの部では多くの出演者がラフソングやバラードを中心とした、ク村が「一緒にライブしていいかな」と誘ったことだ。

科学を分かりやすく説明する

『科学とはどういう意味か』 森博嗣 著 (幻冬舎新書)

「科学とは誰にでも再現できるもの」である。また、この誰にでも再現できるというステップを踏むシステムこそが「科学的」とあるという意味だ。ある現象を観察されたという。最初にそれを観察した人間が、それをみんなに報告する。そして、ほかの人たちにもその現象を観察してもらうのである。その結果、同じ現象をみんなが確かめられたとき、はじめてその現象が科学的に「確か」になる。

「科学とは誰にでも再現できるもの」である。また、この誰にでも再現できるというステップを踏むシステムこそが「科学的」とあるという意味だ。ある現象を観察されたという。最初にそれを観察した人間が、それをみんなに報告する。そして、ほかの人たちにもその現象を観察してもらうのである。その結果、同じ現象をみんなが確かめられたとき、はじめてその現象が科学的に「確か」になる。

科学とはどういう意味か

森博嗣 著 (幻冬舎新書)

「科学とは誰にでも再現できるもの」である。また、この誰にでも再現できるというステップを踏むシステムこそが「科学的」とあるという意味だ。ある現象を観察されたという。最初にそれを観察した人間が、それをみんなに報告する。そして、ほかの人たちにもその現象を観察してもらうのである。その結果、同じ現象をみんなが確かめられたとき、はじめてその現象が科学的に「確か」になる。

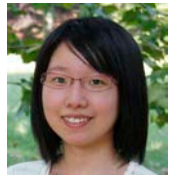
宇陀則彦 准教授(知識情報学)

図情系・准教授。1999年図書情報学専攻、2001年に助教授。筑波大学との統合により02年から筑波大学図書情報学系助教、07年から現職。

「量を示す数字の便利など、計算ができていく点だ。これは数字のもつ一つの意

「科学で証明されたことは、条件さえ一致していれば、結果がほぼ確実に予想できる。それを人間がみつけたとき、科学がスタートしたといってもよい。このことは、材料を吟味して同じ環境、同じ手法でものを作れば、信頼性の高い製法ができることを意味している。この予測が工業の基本となった。農業だって同じ。医療行為だって、この考えに基づいて行われている。人間の生活は、このような予測の科学によって支えられているのである」

記者の声



井口理恵子

埼玉県で7月、全盲の男性(61)が連れていた盲導犬が、何者かに刺される事件があった。男性が気づかぬうちに盲導犬の服をめくり上げて刺す、という卑劣な犯行だ。ここで強く印象に残るのは、事件を受け障害者たちが「私たちが『一人の人間』とみてほしい」と話していることだ。その言葉の意味をもう一度考えたい。

障害者の正しい理解を

駅(埼玉県川口市)間で乗車後、職場に着いた。だが職場で同僚がオスカーの服の血を発見し、服をめぐる右腰付近にフォーク状のもので刺されたような傷があった。幸いオスカーは回復した。だが、「被害者から自分の姿が見えない」ところを利用した悪質な事件

で、警察は器物破損容疑で捜査を始めている。事件を受け多くの報道がなされたが、その中でまず驚いたのが「盲導犬への被害が絶えない」という事実だった。盲導犬団体によると、最近10数年でも▽たばこの火を押し付ける▽顔を蹴る▽体にいたずら書き

「一人の人間」として、施設利用などの面でパートナーと同等の権利を認められている。公共の施設は、著しい損害を被るなどの理由が無い限り、補助犬を伴った障害者の利用を断ることはできないのだ。また鉄道

「障害者はラッシュ時に電車に乗るな」「盲導犬は入店するな」という意見は出てこないだろう。私の伯父は盲学校で長く教師を務め、自身も軽度の視覚障害を持っていた。私も伯父の経歴を知らなければ視覚障害者を意識することは少なかったらう。オスカーの事件は悲しいものだが、誰もが本当に住みやすい社会をつくれるように一人一人が考え、知識を得るきっかけになればと思

「比文1年・女性」 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

「芸専1年・女性」 日記やメモ帳代わりに利用したり、人の投稿を眺めて暇つぶしをしたりしている。愚痴や攻撃するような投稿はしてはいけないと思う。他人が投稿した内容を引用して再投稿する「リツイート」によって、情報が得られるのが便利。たまためり込まないように注意している。周囲であまり利用されていないSNSアプリは使わない。

筑波時評

オリンピック・パラリンピック競技大会の開催地が東京に決定してから1年が経過した。この1年間は、何となく浮かれた気分になっていた雰囲気があった。東京オリンピック・パラリンピックを現実的に担う組織委員会も設立され、政府が

招致の切り札として世界に公約したスポーツ・フォー・トゥモローも始まった。本学にはそのうちの一つ、国際スポーツアカデミーが設立され、来年の開設に向けて準備

「五輪教育」の発展を である。単に欧米のスポーツ理念や科学を学ぶのではなく、日本の文化や嘉納治五郎の理念も学んでほしい。世界の様々なスポーツ組織で、日本の文化や考えを発信してもらいたいと思う。これから筑波キャンパスには、体育系の留學生がますます増えると思う。

「比文1年・女性」 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

「社学1年・女性」 幼稚園のころは、パン職をなぐすために活動人になった。工作や料理が好きだった。特にパル。昔の夢は、結婚することだった。修士課程が終わった。フランスに帰国して、日本語学校を設立したい。【社学4年・女性】 本を読むことが好きな

「社学2年・女性」 昔の夢はファンタジー小説家。今の夢はとにかく就職。会社員になりたい。【工芸専2年・男性(韓国)】 昔の夢は科学者。その夢は今も変わらず、韓国から日本に留学し、夢を追っている。



真田久

教授(五輪史)

体育系・教授。筑波大学大学院修了、2008年から現職、12年から体育専門学群群長。著書に「現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか(ミネルヴァ書房・共著)ほか。

「五輪教育」の発展を である。単に欧米のスポーツ理念や科学を学ぶのではなく、日本の文化や嘉納治五郎の理念も学んでほしい。世界の様々なスポーツ組織で、日本の文化や考えを発信してもらいたいと思う。これから筑波キャンパスには、体育系の留學生がますます増えると思う。

「比文1年・女性」 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

「社学1年・女性」 幼稚園のころは、パン職をなぐすために活動人になった。工作や料理が好きだった。特にパル。昔の夢は、結婚することだった。修士課程が終わった。フランスに帰国して、日本語学校を設立したい。【社学4年・女性】 本を読むことが好きな

「社学2年・女性」 昔の夢はファンタジー小説家。今の夢はとにかく就職。会社員になりたい。【工芸専2年・男性(韓国)】 昔の夢は科学者。その夢は今も変わらず、韓国から日本に留学し、夢を追っている。

「社学2年・女性」 昔の夢はファンタジー小説家。今の夢はとにかく就職。会社員になりたい。【工芸専2年・男性(韓国)】 昔の夢は科学者。その夢は今も変わらず、韓国から日本に留学し、夢を追っている。

反射鏡

SNSの使い方

便利なコミュニケーションツールとして日常生活に浸透しているツイッターやフェイスブックなどのSNS。誰でも手軽に使える一方、顔写真などの個人情報安易に公開されるなど、その使い方が議論を呼んでいる。筑波大学でも今年5月、学生がツイッターに投稿した内容をめぐり、警察に逮捕されるなどトラブルが相次いでいる。このような状況の中、筑波大学生はどのようにSNSを使っているか。第1エリア周辺で聞いた。(大西美雨II社会学類1年、小野恵司II同1年)

「社学1年・男性」 SNSはあくまでコミュニケーションのツール。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

「社学1年・男性」 SNSはあくまでコミュニケーションのツール。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。



イラスト=島田文(芸術専門学群4年)

昔の夢、今の夢

さまざまな地域から集まってきた筑波大学生。昔はどのような夢を持っていたのだろうか。そして今叶えようとしている夢は何だろうか。昔の夢と今の夢を、中央図書館で聞いた。(廣岡里穂II人文学類1年、関根岳II社会学類3年)

【社学1年・女性】 幼稚園のころは、パン職をなぐすために活動人になった。工作や料理が好きだった。特にパル。昔の夢は、結婚することだった。修士課程が終わった。フランスに帰国して、日本語学校を設立したい。【社学4年・女性】 本を読むことが好きな

【社学1年・女性】 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

【社学1年・女性】 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

【社学1年・女性】 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

【社学1年・女性】 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

【社学1年・女性】 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

【社学1年・女性】 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

【社学1年・女性】 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

【社学1年・女性】 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

【社学1年・女性】 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

【社学1年・女性】 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

【社学1年・女性】 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

【社学1年・女性】 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

【社学1年・女性】 SNSで人と交流する時は、相手が先輩なら敬語を、相手が同年代なら砕けた言葉を使い、実際にその人に会う時の付き合い方と変わらぬ。SNSに依存している。SNSで人と交流する時は、情報収集や友達への連絡のために普段からツイッターを使う。ツイッターとフェイスブックを使う。使用頻度は1日に2回、各数分程度で、SNSに依存している。

～筑波大学新聞40周年記念特集～

読みたくなる紙面目指して



生徒が手作りした新聞を持つ片岡さん(9月27日、東京都立農業高等学校で)＝平嶋健人撮影

「新聞の自由とは批判の自由」をモットーに、1974年に第1号が発行された筑波大学新聞は、今年10月で創刊から40年を迎える。今回は40周年記念として、創刊時の部員に当時の話を聞いたほか、マスコミ業界に就職したOBの活躍ぶりを紹介する。また、筑波大学で大学新聞との40年にわたる関わりを本紙編集代表・福原直樹教授に考察してもらった。(鈴木拓也) 人文学類、平嶋健人 社会学類、佐々木優 知識情報・図書館学類

1974年。本紙の創刊を機に「大学と学生と社会の懸け橋にならねば」という大学からの呼びかけで、編集室に集まったのは片岡雅子さん(昭和52年度第一学群人文学類卒業)ら数人の学生だった。40年の歴史の中で、紙面構成や記事の内容は大きく変わった。現在は東京都立農業高等学校の世界史の教師として教壇に立つ片岡さんに、40年前の新聞制作の現場の様子を聞いた。

創刊時の大学新聞の雰囲気はどうか。部員の中には大学から資金をもらって新聞を作る体制に疑問を抱き、「大学の御用新聞になってしまふ」と反発する人もいました。「独立をしよう」という話もあり、部員の中でも意見が割れていました。ただ、私自身は大学から縛られている感覚はあまりなかったです。大学職員や先生も親切で、自由に記事が書けていたと思います。――当時はどのように新聞を作っていたのですか。当時はワープロもなかった。原稿は全て手書きです。書いた原稿はみんな自分で読んで、本気で読み返して「この書

手書きの原稿 挿絵も部員で

き方は面白くない」など、批評し合いながら修正していました。

――印象深い記事は何ですか。筑波ガマオ君の「一面の割り付け紙にペンで」

という記事です(第7号4ページ)や見出しの文字を書き込み、印刷をお願いしていた「常陽新聞の担当

者に原稿用紙や写真と一緒に渡します。見出しの文字を入れたり、原稿の文字を赤字に起してくれたのは常陽新聞の人です。締め切り間際には、常陽新聞に活

まり込んで新聞を仕上げた部員もいたそうです。――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

「40年の歩み」

大学の在り方を問う姿勢

福原直樹・編集代表

1974年10月26日。本紙は記念すべき第一号を発行した。その一面の左下。初代の編集代表である鈴木博雄氏(現名誉教授)は「創刊の辞」でこう書いた。

「大学の使命である学問研究は厳しい批判的精神によって担われているが、大学新聞も旺盛な批判的精神によって貴かれたものでなければならぬ。『新聞の自由とは批判の自由』である」

「新聞の自由とは批判の自由」

学問が批判的精神に基づくとともに、大学新聞も批判的精神に基づくとあるべきだ……。そう書いた鈴木博雄氏の精神は、その後の本紙で遺憾なく発揮された。――大学新聞も批判的精神に基づくとあるべきだ……。そう書いた鈴木博雄氏の精神は、その後の本紙で遺憾なく発揮された。

まず、大学の在り方を常に問い続けるその姿勢である。すでに創刊翌年の第4号では、一面で「大学教育の理念を問う直せ」の見出しが躍り、宿舍のあり方について大学と学生に相互信頼が欠けていると指摘した。また80年代になると、学園祭の「届け出制」をめぐる学生と大学側との対立を、中立的な立場から細かに報道した。97年には、江崎玲於奈学長の在任時代(92～98年)に関する企画「黒船来

航」が連載され、江崎時代について天学の「新構想」の根幹に関わる問題の抜本的改革には至らなかったこと分析。このほか「障害者にも開かれた大学」(2000年)、「11の矢野舎、マスターキー盗難か/学生20時間知らされず」(04年)など、大学の在り方を問う記事は、枚挙にいとまがない。――無難、ベンの先は、学生にも向けられた。78年12月の茨城県議選では100人以上の筑波大生が買収され、選挙違反で検査されたが、同月紙面ではこの詳細な経緯を報道。「開学以来最大の恥づき事件」と、学生の「政治的無関心」を批判した。一方、88年9月の紙面では、つくば市内で道路にあふれるゴミの写真を掲載。「ゴミのルールを守らない学生」の実態を紹介している。

その批判的精神は、今も受け継がれている。現在、本紙で続くのが「つくばに街灯を」のキャンペーン記事だ。「大学周辺の暗い路上で、わいせつ事件が増加している」という警察担当記者の情報をもちに、記者たちは街灯がなく危険な夜のルポや、つくば市役所への取材を敢行。一連の記事が掲載された後、同市は県や大学などと協力して「街灯協議会」を設置、街灯増設に乗り出している。

「事なかれ主義に陥らず、一般の社会人も読みたい新聞を」……。昨年の開学40周年を機に、鈴木氏は本紙にこう注文を寄せてもいる。本紙の発行部数は2万部以上。大学内にどまらず、警察、市役所など周辺地域にも配布されている。本紙の挑戦は続いている。

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。



批判的精神を貫いた筑波大学新聞の軌跡



日経新聞記者 松尾洋平さん

「記者になるなら、世の動きを動かす」――見聞のすべてがニュースだった。半分の取材で、多くの人が震災から立ち直っていく姿を間近で見た経験は忘れられない。2～3年に一度、「世の動きを動かす」という新聞の思いは、施設の

記事で「世の中を動かす」

「趣味は筑波大学」と言える。学生目線で大切に金成15年度人文学類卒

筑波大学新聞の卒業生の多くは、マスコミ業界で活躍している。彼らは今、どのような仕事をしているのか。2人のOBに話を聞いた。

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。



講談社校閲 石川心さん

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

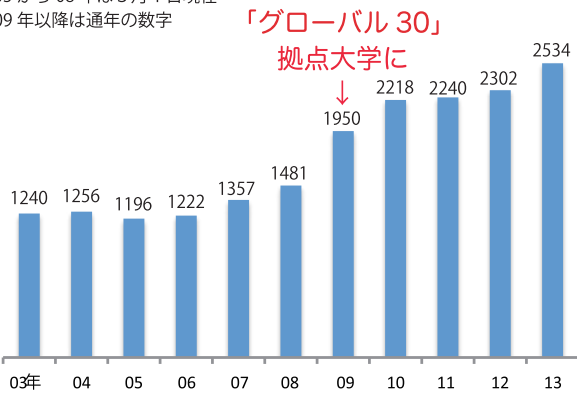
大学新聞の経験を仕事に

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

――当時の大学新聞の役割は何でしたか。筑波大学に対する世間の誤解を解くことだったと思います。

留学生 4500人への道

03から08年は3月1日現在
09年以降は通年の数字



筑波大の受け入れ留学生数の推移

2013年現在、筑波大には学群生・大学院生・研究生など短期留学生を含む計2534人(通年)の留学生が在籍する。これは国内の大学で第7位、国立大学では第4位の多さだ。筑波大が留学生の増加に力を入れる背景には、09年に「グローバル30」の拠点大学に採択されたことがあり、グローバル30は文部科学省が進める「国際化拠点プログラム」の3コース、整備事業」の別称で、20年までに留学生を30万人受け入れることを目指している。参加校は東京大学や早稲田大学など全国の13大学。国から年間約30億円の授業料が免除される。

グローバル30効果は大

世界トップレベルの人材を獲得しようと、多くの大学が留学生の受け入れに力を入れている。筑波大学でも2020年までに留学生数を4500人に増やそうと、英語で学位を取得できるコースを開設したり、留学生7日本人学生が同居する宿舎を16年夏までに新設するなど、さまざまな取り組みを行っている。だがこれらは、留学生数の増加にどれだけ効果があるのか。そもそも、大学にとって留学生数を増やす意義は何か。大学本部や留学生センターを取材し、「留学生の受け入れ」について改めて考える。(井口彩、小野憲司、山野拓実、社会学類、田中開、教育学類、添島香苗、生物学類)

2013年現在、筑波大には学群生・大学院生・研究生など短期留学生を含む計2534人(通年)の留学生が在籍する。これは国内の大学で第7位、国立大学では第4位の多さだ。筑波大が留学生の増加に力を入れる背景には、09年に「グローバル30」の拠点大学に採択されたことがあり、グローバル30は文部科学省が進める「国際化拠点プログラム」の3コース、整備事業」の別称で、20年までに留学生を30万人受け入れることを目指している。参加校は東京大学や早稲田大学など全国の13大学。国から年間約30億円の授業料が免除される。

「留学生に興味持って」



渡邊和男 センター長

留学生の勉強や生活の支援などを行う機関が留学生センターだ。渡邊和男センター長(生環系・教授)にセンターの具体的な支援内容や課題を聞いた。

渡邊センター長によると、留学生センターの主な役割は、留学生の受け入れや、各学類の支援室が対応しきれない留学生の細かいニーズにこたえることだ。例えば、各支援室では翻訳できない学生生活に関する情報を英語などで伝えている。

センターでは、専任の教員16人が5チームに分かれ、支援を行う。例えばは相談指導チームでは「授業についていけない」「話せる友人が少なく寂しい」「お金に困っている」……などのさまざまな相談に応じる。また教員が学生宿舎に出張相談所を開設し、留学生の様子を確認してあげる。渡邊センター長は「留学生が求める情報をすぐに提供できるように努力している」と話す。

だが課題もある。留学生センターでは、留学生に日本語を教えたり、学内外の案内や買い物など日常生活の世話をする学生を募集している。だが、それに参加する学生は少なく、「留学生が増える一方で、今のままでは留学生と協働する日本人学生が足りない(渡

副学長インタビュー

「多様性を武器に」



留学生を受け入れ、交流する理由は何か。筑波大学の留学生受け入れの方針や学生への要望について、キャリアライン・ベントン副学長(国際担当)に聞いた。

なぜ留学生は必要なのか。現代社会では、国際的な交流が求められる(9月17日、副学長室で) = 井口彩撮影

留学生を受け入れ、交流する理由は何か。筑波大学の留学生受け入れの方針や学生への要望について、キャリアライン・ベントン副学長(国際担当)に聞いた。

なぜ留学生は必要なのか。現代社会では、国際的な交流が求められる(9月17日、副学長室で) = 井口彩撮影

争や貧困問題など国境を越えたいさまざまな問題が発生している。このような問題の解決のためには、さまざまな視点から物事をとらえることが大切。大学生の時から異なる文化を持つ留学生と交流し、多様な価値観を理解することが必要だ。多様性は「どんな場面でも大きな武器になる」。

筑波大は2009年に文部科学省の国際化拠点整備事業「グローバル30」の拠点大学に採択され、留学生数の増加を目指す取り組みを進めてきた。

「グローバル30」の枠組みの下で、英語だけでなく学位が取得できるコースの設置や留学生用の学生宿舎の整備など受け入れ環境の整備を積極的に行った。その結果、留学生数は08年の1481人から13年には2534人へと大きく増加した。英語で行う授業は日本人の受講者にも評判で、これからコース数を増やしたい。

また、同時に海外の協定校も09年から13年にかけて143校増加し、58カ国2699の教育機関と相互に授業料を徴収せず留学生を受け入れる協定を結んでいる。日本語や日本文化の授業を受けられる「Sakuba Short Stay Program」など、留学生のニーズに合ったプログラムを用意していることも留学生増加の一因だ。

――筑波大に求めることは何でしょうか。9月、10月に入学する多くの留学生は日本人学生の輪に入りづらく、日本人学生と話したいと思ってもなかなか踏み出すことができない。サークルの新生歓迎会を9月にも行うつもりですが、留学生も輪に入りやすいのではないかと。日本人学生は留学生との交流に消極的な人が多い。「英語が話せない」と留学生から距離を置いてしまうものがある、自分から積極的に留学生のいる場に入っていくことが大切。留学生に日本を好きになってもらうよう、仲間作りをしてほしい。



留学生センター事務室の様子(9月11日) = 山野拓実撮影

早稲田大 国外で受験も

留学生の増加を目指す「国際学生寮WISH」を学外に設置。入寮対し、他大学ではとらえられないような取り組みを行っているのか。筑波大学と同様、「グローバル30」の拠点大学の早稲田大学が取材した。同大の留学生は2013年11月現在4697人と国内大学で1位。昨年からは、32年までに留学生1万人を目標にする計画を策定。それに向けさまざまな試みを実施している。

例えば、今年3月、日本人学生と留学生が同居行われる学部や学年、国籍が魅力だ。

グローバル30の目的は「留学生受け入れ体制の充実」や「産業界との連携」などまで、入試制度や生活支援などに関する具体的な目標は設定されていない。そのため、各大学は留学生獲得に向け独自の取り組みを展開している。

- 早稲田大の「渡日前入試」
- ① 自国で「日本留学試験」を受験
 - ② パソコンで志願書を作成
 - ③ 志願書を国際便で送付
- 各書類の内容を審査し、合格者を決定

留学生センターは、来年4月に大学内の組織「グローバル・コモンズ」に統合される。グローバル・コモンズは、昨年4月に発足した国際関係の各部署を横断的に取りまとめる組織。ま

国際性の日常化を

「言語の障壁」を痛感

筑波大学で学ぶ留学生は生活の強いられるという視点から現状を捉えているのか。シンガポール出身で、英語で行う授業だけで学位を取得できる「英語コース」に所属するタキザワヒデユキさん(生物3年)に話を聞いた。タキザワさんによると、「金銭面での不安を抱える留学生は多い」という。大学の予算によってその規模の違いなどから自由な



留学生の現状について語るタキザワさん(9月30日、留学生センターで) = 田中開撮影

生活の強いられるという視点から現状を捉えているのか。シンガポール出身で、英語で行う授業だけで学位を取得できる「英語コース」に所属するタキザワヒデユキさん(生物3年)に話を聞いた。タキザワさんによると、「金銭面での不安を抱える留学生は多い」という。大学の予算によってその規模の違いなどから自由な

国籍を超えて交流しよう

視点

2009年、筑波大学は文部科学省が留学生を増やすために推進する事業「グローバル30」の拠点大学に採択された。その後、英語での学類の授業や、留学生と日本人学生が同居する宿舍を設けるなど留学生の受け入れ体制の整備を進めてきた。その結果08年から5年間で受け入れ留学生は1000人以上増え、目標とする4500人に達する日も近付いてきた。



人の骨には膨大な情報が刻まれているとして

古代の共同墓地に眠る人骨を調べれば、家族構成から食生活まで、多くのことを読み解くことができる。常木晃教授(人骨学)も西アジアを中心とする研究者の一人だ。同教授の専門は、西アジア考古学、民族考古学、葬送に関する考古学だ。2007年から10年

まで、シリア西部のテラーゲンだ。人骨のコンラゲンの元素配分には、個人の食生活が色濃く反映される。例えば、窒素元素の割合が高いと植物中心の食生活、炭素元素の割合が高いと肉食の割合が高いことが推測できる。

人骨から食生活を明らかに

人間社会のルーツを探る

分析の結果、同じ地域に住んでいても、家族ごとに食生活が異なっていたことなどを明らかにした。発見の決め手になったのは、人骨に含まれるコ

その結果、同じ出身国の学生同士で集まり、より内向きになってしまつてしまつた。こうした状況を打開するため、何が出来るのか。タキザワさんは「留学生の多くは日本人学生と交流したと語った。

元素の割合が高いと肉中心の食生活……という具合だ。常木教授はアイソトープ分析を専門とする東京大学の米田穰教授、同大学院生の板橋悠さんらに依頼し、発掘した人骨の分析を依頼した。シ



発掘作業に臨む常木教授

何事にもチャレンジ

卒業して、既に四半世紀が経ちました。しかし、追越宿舎のたたずまい、ペダストリアン協の美しい秋桜、夜間アルバイトをしていた中央図書館の静謐など、昨日のこのように目に浮かびます。あのころ、自分は何を考えていたのでしょうか。専攻の心理学・教育学の

手紙

文部科学省 井上恵嗣さん

ことや女の子のことがかりだったような気がしますが、教師になろうと思いません。文部科学省の所掌範囲は広く、学校の先生方や教育者のみならず、著名な文化人、芸能人、宇宙飛行士、トップアスリートの方々と仕事をすることも多く、日々刺激を受けています。

「トップ型大学」13校

…世界大学ランキング トップ100入りを目指す

北海道 東北 筑波 東京 東京工業 東京医科歯科
名古屋 京都 大阪 広島 九州 早稲田 慶應

「グローバル化率引型大学」24校

…新しい取り組みで国際化を先導する

千葉 東京外国語 東京芸術 長岡技術科学 金沢
豊橋技術科学 京都工芸繊維 岡山 熊本
奈良先端科学技術大学院 国際教養 会津
国際基督教 芝浦工業 上智 東洋 法政 明治 立教
創価 国際 立命館 関西学院 立命館アジア太平洋

「スーパーグローバル大学」37校

筑波大学 自然図鑑

クワムシのクワムシが鳴いているのを見つけたことが出来る。色は褐色か緑色、赤みがかったものもいる。秋の鳴く虫の声を聴くのが好きだという人は、その姿を見て楽しむのも一興。

後期初白星で11位に

残留争い続く

関東大学リーグ戦

【千葉県総合スポーツセンター東総運動場(千葉県旭市)で森脇慎二社会学類2年、写真も】関東大学リーグ戦後期が9月6日から11月15日にかけて行われている。創部以来初の2部降格の危機に直面している筑波大は9月28日、早稲田大と対戦。1-0で勝利し、後期初白星を挙げた。筑波大はこの勝利で勝ち点を積み上げ11位に浮上、1部リーグに残留できる10位まで勝ち点差2に迫った。(10月2日現在)

前半、風上に立った筑波(野嘉大(同4年)がゴール大はワントップの中野誠也(体専1年)を中心に主導権を握る。8分、中央で中野誠也が右足を振り抜いて先制した。その

成績 10月2日現在

	点	試	勝	敗	分	得	失	差
①順天堂	33	15	10	2	3	26	11	15
②専修	30	15	9	3	3	34	16	18
③明治	30	15	9	3	3	26	14	12
④早稲田	28	15	8	3	4	19	12	7
⑤国士館	25	15	7	4	4	24	18	6
⑥慶應義塾	25	15	7	4	4	18	14	4
⑦駒澤	23	15	7	6	2	23	28	-5
⑧桐蔭横浜	16	15	5	9	1	20	30	-10
⑨流通経済	14	15	4	9	2	15	25	-10
⑩東京国際	11	15	2	8	5	15	23	-8
⑪筑波	9	15	2	10	3	10	24	-14
⑫中央	8	15	2	11	2	15	30	-15



前半8分、スルーパスを受けた中野誠也が先制ゴールを決める(9月28日、早稲田大戦で)

後半も筑波大のペースで試合は進む。12分には中野誠也がセンターライン付近でボールを奪取。そのままドリブルで持ち込み、DF3人をかわして得点機を迎えるがGKの好セーブに阻まれた。40分も再び中野誠也がDFからボールを奪いGKと

一対二になるが防がれた。風下で迎えた後半は、早稲田大の猛攻にあたり、我慢の時間が続く。後半3分、4分と立て続けにミドルシュートを打たれるが、いずれも枠外。5分にはゴール右前から決定的なシュートを浴びるが、GK

の岩脇力哉(同3年)がダイビングして防いだ。怒涛の攻撃を耐えと33分、早稲田大の攻撃を中盤で遮りそのまま車屋紳太郎(同4年)からのパスを受けた中野嘉がドリブルで持ち込みゴールを放つ。だがこれはゴール右上に外れた。

中山雅雄監督(体育系・准教授)は「自分たちのやりたいサッカーができたが、追加点を取れなかったのは課題。1部残留へ負けない戦いが続くが、このような試合ができれば結果はついてくると思う」と語った。(12面に関連写真)



国士館大に攻め込まれる筑波大(9月20日) =女子バレーボール部提供

女子バレーボール部は、9月6日から、青山学院記念館(東京都渋谷区)などで行われている。10月2日現在、女子は持ち前の「粘り強さ」を見せられず、3勝3敗で8チーム中4位と苦戦が続いている。一方、男子は4勝5敗で12チーム中10位と低迷している。

女子は初戦で嘉悦大と対戦し、3-0でストレート勝ち。次の青山学院大戦では、第1、2セットを連取。だが、第3セットを奪われると、第4、5セットも奪われ惜敗した。続く国士館大戦、日本女子体育大戦は、それぞれ3-0、3-1と快勝し、波に乗ったように見えたが、日本体育大、東海大にいずれも1-3で連敗し、勢いを失った。

男子は、東海大との初戦を3-1で勝利したが、その後は中央大に0-3、早稲田大に1-3で連敗し

3-1、5-8面「第26回全国大学与道選抜大会」の写真説明で、「冷静に的を狙う(右)と斎藤(中央)と斎藤(右)と今林」とあるのは「冷静に的を狙う(右)と斎藤(中央)と斎藤(右)と今林」と訂正いたします。

訂正とおわび

秋季リーグ戦は10月12日まで行われる。(林健太郎)



9回1死満塁、サヨナラ適時二塁打を放つ國井(9月14日、城西大戦で)

【昭島市民球場(東京都昭島市)で鈴木拓也(人文)が2回戦総当たりで戦う】首都大学秋季1部リーグ戦が9月6日から行われている。筑波大は10月2日現在、5勝2敗1分けで3位と好調を維持している。中でも1番を打つ國井伸二朗(体専3年)は32打数13安打9打点を記録し、打線を牽引する活躍ぶりだ。

9月14日に昭島市民球場であった城西大との2回戦では、國井が右中間を破るサヨナラ打で試合を決めた。先発の西島隆成(同3年)は何度も得点圏に走者を背負うが、得点を許さない粘りの投球を見せた。5回には二死満塁のピンチで

4番を二ゴロに打ち取るなど、要所を締め、5回無失点でマウンドを降りた。六回からは石黒敦也(同2年)が登板。石黒は八回まで危ない投球を見せるが、九回に一死から連打を浴びて1点を失った。

打線はその裏、先頭の川端将広(同1年)が中前打で出塁。松谷暉暉(同1年)と代打野田航洋(同3年)も安打で続き、一死満塁のチャンスを作る。最後は國井が右中間に2点適時二塁打を放ち、サヨナラ勝ちを決めた。

川村卓監督(体育系・准教授)は「下位打線が出塁し、1番の國井でランナーを返すいい形ができていた。これから上位チームとの試合が続くが、挑戦者のつもりで戦いたい」と語った。(12面に関連写真)



好成績を残し笑顔の部員たち(8月24日、つくば市総合体育館) =体育系提供

第10回全日本学生ラート競技選手権大会

全日本学生ラート競技選手権がつくば市総合体育館(つくば市金田)で、8月23-24日に行われた。女子の部では松浦佑希(体専4年)が全4種目を制し、男子の部では相原慶之(同4年)が斜転、跳躍、個人総合で優勝した。

女子の部では、松浦が出場選手の中で唯一直転と跳躍で9点、斜転で8点の高得点を記録。合計で27・55点を獲得し、全種目で2連覇した。松浦は「天なき失敗もなく、練習通りに演技できた。今後も一つの課題と向き合いながら練習に励みたい」と語った。(油布知夏)

また団体戦では、相原の27・55点を獲得し、全種目で2連覇した。松浦は「天なき失敗もなく、練習通りに演技できた。今後も一つの課題と向き合いながら練習に励みたい」と語った。(油布知夏)

リーグ戦3位と好調

國井が打線を牽引

【東京都港区】などで行われている。筑波大は故障者が続出し、10月2日現在0勝2敗でAグループ5位に沈んでいる。

9月14日に秩父宮ラグビー場で初戦の明治大戦があった。筑波大は前半1分、8分、18分に3連続でトライを決められる苦しい立ち上がりとなった。26分に木村貴大(体専3年)がトライを、山下一(同4年)がキックを決め7点を返し、前半を終えた。

後半5分、明治大にペナルティーキックでさらに点を広げられたが、8分に福岡堅樹(情科3年)、10分に窪田寛(体専4年)が連続でトライを決め、21-24と3点差まで迫った。しかし明治大の攻撃を防げず、21-41で敗れた。試合後、木村は「前半に明治大のプレッシャーに押し流され、いい流れを作れなかったと悔しさをにじませた。」(山野拓実)

流れつかめず4位

男子 苦戦続く

関東大学リーグ戦が9月6日から国立代々木競技場第二体育館(東京都渋谷区)などで行われている。春の選手権で準優勝した男子は、下馬評を高くしたが、流れをつかみきれず苦戦が続く。10月2日現在、6勝4敗で10チーム中4位となっている。

9月21日には、専修大生田キャンパス(神奈川県川崎市)で青山学院大と対戦した。昨年の秋季リーグ戦では、勝利している相手だが、決め手に欠き、逆転することができずに79-84で敗れた。

第1ピリオドは点を取れず展開になった。杉浦佑成(体専1年)のシュートなどで得点を連取。だが、青山学院大に反撃を許し、19-27とリードされて第1ピリオドを終えた。

第2ピリオドでは、序盤に点差を14点まで広げられる。笹山貴哉(同4年)が外角からのシュートを決め、30-43とリードを許し、前半を折り返した。

坂東拓(同4年)の3Pシュートから始まった第3ピリオド。終盤にも、坂東が3Pシュートを決めて詰めるが、青山学院大の猛攻を受け、再びつきはなされ、79-84で惜敗した。

第4ピリオドでは、坂東の3Pシュートで、筑波大に流れが傾き、一時、点差は3点まで迫った。だが、あともうひとつで青山学院大にフリースローを決められ、79-84で惜敗した。

吉田健司監督(体育系・准教授)は「ゲームの入り方が悪く、序盤に点差が開いてしまった。今後は、まとまりのあるチームを作り、後半戦に臨みたい」と話した。(大西美雨)

Aグループ5位

故障者続出響く

【東京都港区】などで行われている。筑波大は故障者が続出し、10月2日現在0勝2敗でAグループ5位に沈んでいる。

9月14日に秩父宮ラグビー場で初戦の明治大戦があった。筑波大は前半1分、8分、18分に3連続でトライを決められる苦しい立ち上がりとなった。26分に木村貴大(体専3年)がトライを、山下一(同4年)がキックを決め7点を返し、前半を終えた。

後半5分、明治大にペナルティーキックでさらに点を広げられたが、8分に福岡堅樹(情科3年)、10分に窪田寛(体専4年)が連続でトライを決め、21-24と3点差まで迫った。しかし明治大の攻撃を防げず、21-41で敗れた。試合後、木村は「前半に明治大のプレッシャーに押し流され、いい流れを作れなかったと悔しさをにじませた。」(山野拓実)

訂正とおわび

秋季リーグ戦は10月12日まで行われる。(林健太郎)

柔道世界選手権

永瀬 団体決勝で一本勝ち

個人戦は5位

世界選手権が8月25〜31日にロシア・チェレピンスクで行われ、初出場した男子81kg級の永瀬貴規(体専3年)が団体戦決勝で一本勝ちするなど、日本の金メダル獲得に貢献した。個人戦では5位に終わったが、期待の若手として存在感を見せた。

個人戦

大会4日目の28日、永瀬は準々決勝で世界ランキング1位のアフタンディル・チリキシビリ(グルジア)と対戦。接近戦を試みるチリキシビリに対し攻めに転じることができず、指導を3つもらい敗退。敗者復活戦でナシフ・エリナス(レバノン)に優勢勝ちしたが、3位決定戦では昨年覇者のロイク・ピエトリ(フランス)に敗れメダルを逃した。

団体戦

最終日の31日、永瀬を含む日本男子はモンゴルとの1回戦、中国との準々決勝をストレート勝ち。前回覇者



写真:長田洋平/アフロスポーツ

団体戦決勝でロシアのカバチロフに大内刈りをきめる永瀬(左)(8月31日、ロシア・チェレピンスクで)

内股で有効を奪い、個人戦の雪辱を果たした。そして決勝ではロシアと対戦。66kg級の海老沼匡(パーク24)、73kg級の太田将平(旭化成)が連敗する中、永瀬がムラト・カバチロフに大内刈りで一本勝ち。団体戦の流れを見事に変え、日本は3-2でロシアを下し優勝を決めた。日本男子は世界選手権に団体戦が取り入れられた2011年大会以降初めて優勝した。今回の世界選手権について永瀬は「世界の中での自分の実力を示すことができたい。次の大会までどんな相手にも対応できる力を身につけたい」と話した。(新田明夏)

女子6年連続の総合優勝 4x400メートルリレー制す

陸上

【熊谷スポーツ文化公園陸上競技場(埼玉県熊谷市)で井口彰二社会学類2年】日本学生対校選手権日本インカレが9月5〜7日に行われ、女子は4x400メートルリレーを制するなど各種目で好成績を残し、6年連続24度目の総合優勝を果たした。男子は昨年から順位を二つ上げ、総合3位だった。女子が強さを見せた

種目は、6〜7日に行われた4x400メートルリレーだ。筑波大は予選を2位で通過すると、決勝でも力強い走りを見せた。1走は昨年のインターハイで400メートルハードルを制した伊藤明子(体専1年)。伊藤は持ち前の持久力を発揮し、筑波大はレース序盤から好調に滑り出した。2走の松田絵梨(体科2年)は、前半はゆるやかなペースで入り、後半疲れを見せる他の選手を抜き返した。その他の主な結果は以下の通り。

日本インカレ

- 【男子】400メートルハードル 加藤誠也(体専4年)50秒91 2位▽3000メートル 津田修也(同3年)8分49秒71 1位▽走高跳 衛藤昂(体科2年)2.22メートル▽走幅跳 濱村鴻次(体専4年)7.90メートル▽やり投 中嶋善寛(同4年)73.72メートル▽園田健太(同3年)72.77メートル▽ハンマー投 保坂雄志郎(体育1年)66.00メートル(体育1年)66.00メートル
- 【女子】4x400メートルリレー 伊藤・松田・松原・神保 3分40秒73 1位▽棒高跳 榎本優子(体育1年)3.85メートル▽走幅跳 中野瞳(同2年)6.61メートル▽ハンマー投 勝山眸美(体専2年)60.70メートル▽やり投 久世生宝(同2年)57.97メートル▽七種競技 松原恵(同2年)5302点 1位、伊藤明子(同1年)5253点 2位



4x400メートルリレーで力走する松原(9月7日、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で) = 陸上競技部提供

諸貫 国体で優勝 女子100背



インカレで準優勝を果たした諸貫(9月7日、横浜国際プールで) = 水泳部提供

水泳

全日本学生選手権(インカレ)が9月5〜7日に横浜国際プール(横浜市都筑区)で行われ、諸貫瑛美(体専4年)が100メートル背泳ぎで準優勝した。また9月12〜14日には第69回国民体育大会が長崎市民総合プール(長崎県長崎市)で行われ、諸貫は100メートル背泳ぎを1分0秒90の自己ベストで制した。

コンディションが万全ではなく、終始トップを追う形で5位に終わった。タイムも1分1秒37と自己ベストには及ばず悔いの残る結果となった。

◆国民体育大会
好調なスタートを切った諸貫はそのままトップを独走。「すべて良かった」という泳ぎで圧勝した。諸貫は「無心で泳いだ結果、自己ベストで優勝できた。次は12月に行われる世界短水路選手権(カタール・ドーハ)の日本代表入りを目標にしたい」と話した。(姉崎信)

男子が2部復帰

関東大学リーグ戦

2014アジアジュニアボート選手権(9月4〜7日、台湾・宜蘭)女子ダブルスカルワーストローク小原有賀(体専1年)8分24秒90 1位

◆ライフセービング
第29回全日本学生選手権大会(9月27〜28日、御宿中央海岸)【女子】1キログラム女子は3年ぶりの2部復帰、女子は1部残留を決めた。

男子は3部リーグで圧倒的な強さをみせ首位に立ち、9月20日の入れ替え戦で東海大に5-4で勝利し、1部残留を決めた。(田中開)

テニス

関東大学リーグ戦が8月24日から9月21日にかけて有明テニスの森公園(東京都江東区)などで行われ、男子は3年ぶりの2部復帰、女子は1部残留を決めた。

男子は3部リーグで圧倒的な強さをみせ首位に立ち、9月20日の入れ替え戦で東海大に5-4で勝利し、1部残留を決めた。(田中開)



「小さいころは恥ずかしがり屋で、格闘技向けの性格ではなかった」というが、今年2月のヨーロッパオープン・ローマの63kg級で優勝を飾るなど、国内外の大会で輝かしい成績を持つ。得意技の切れ味鋭い「内股」で、これまで数々の相手を倒してきた柔道部女子期待の選手だ。



柔道女子63kg級のホープ

津金 恵 (体専1年)

入学後は初めての一人暮らし。今までは母親に任せていた家事を自らこなすようになった。自己管理の大切さを実感して自炊も積極的に行うようになった。原付バイクに乗ってスパー(買い物に行く)こともあった。また、筑波大の柔道部も「自分で考え、自分で(自分の癖や弱点などを)見つける」というのがモットー。大学に入ってからは、さまざまな場面で自身と向き合うことが増えた。「大学生になって」自由で

「文武両道」目標に

高校2年の時に、この大会で出た結果が柔道を通じてのきっかけとなった。「今でも練習は嫌いだけれど、(柔道)相手に勝つと嬉しい」と笑う。

さらに高校2年の時に、この大会で出た結果が柔道を通じてのきっかけとなった。「今でも練習は嫌いだけれど、(柔道)相手に勝つと嬉しい」と笑う。

さらに高校2年の時に、この大会で出た結果が柔道を通じてのきっかけとなった。「今でも練習は嫌いだけれど、(柔道)相手に勝つと嬉しい」と笑う。

記録ファイル

漕艇

2014アジアジュニアボート選手権(9月4〜7日、台湾・宜蘭)女子ダブルスカルワーストローク小原有賀(体専1年)8分24秒90 1位

◆ライフセービング
第29回全日本学生選手権大会(9月27〜28日、御宿中央海岸)【女子】1キログラム女子は3年ぶりの2部復帰、女子は1部残留を決めた。

男子は3部リーグで圧倒的な強さをみせ首位に立ち、9月20日の入れ替え戦で東海大に5-4で勝利し、1部残留を決めた。(田中開)

「起業するならつくば」



大学主催のビジコン開催

筑波大学が主催した「ビジネスコンテスト(Tsukuba Creative Camp)」が7月18-20日に開催された。TCCは学生起業家を育成し、つくば市・筑波大を日本のシリコンバレーにすることを目標に、筑波大出身の経営者の会「筑波みらいの会」が企画。約20組の学生が参加し、ビジネスプランを練り上げた。



参加者(左)にアドバイスする森川社長(右)ら(7月19日、5C棟で) = 平嶋健人撮影

コンテスト2日目には筑波大出身の経営者ら約20人による個別指導が行われた。各チームがビジネスプランを全員の前で5分間発表。その後、各グループに一人の講師が付く形で、個別指導が行われた。広告会社などさまざまな業界の講師は各グループを回り「事業規模を小さくした方がリスクが少ない」とアドバイスした。3日目に行われたビジネスプランのプレゼンテーションに参加する者は、永田恭介学長などの審査員を前に、前日より洗練されたビジネスプランを発表。審査の結果、稲垣洗雄さん(知識3年)のグループが1位に選ばれた。稲垣さんらが提案したのは「VISION」という動画配信サービス。ニュース番組のような動画をコンピュータで自動編集し、ネット上で配信するプランだった。収益性や動画編集の技術力が高く評価された。

受験生応援アイドル活躍 筑波大生がプロデュース

青木風人さん(芸専4年)がプロデュースするアイドルグループ「美少女アイドル5W1H(以下5W1H)」のデビューシングル「GO!GO!5W1H」のCDが9月17日に発売された。学園祭などのイベントで購入できるほか、5W1Hの公式ホームページでも注文を受け付けていると、立ち向かう受験生を支えたいという思いを込めて制作された。

5W1Hは、今年4月に筑波大の竹内緑さん(芸専2年)と丹治通さん(同3年)を含む現役女子大生6人で結成されたアイドルグループ。「センター試験へも注文を受け付けている」という。デビューシングル「GO!GO!5W1H」は、今年4月に筑波大の竹内緑さん(芸専2年)と丹治通さん(同3年)を含む現役女子大生6人で結成されたアイドルグループ。メンバーが受験科目を解説する「レクチャームービー」の配信を中心に活動を行ってきた。

CDは通常盤とイベント限定盤に無料配布するアカデミック盤の2種類があり、それぞれ表題曲とカップリング曲「夏のTi(偏着値)」を収録。表題曲は本気で目指そう、難関も恐れずに「私たちと立ち向かおう」と、受験生を応援する歌詞が並ぶ。アイドルグループで、アカデミック盤には各メンバーから受験生に向けたメッセージを収録した。楽曲の作詞やジャケットのデザインなどは、筑波大の学生が行った。CDの制作資金の調達には、つくば市を盛り上げる企画に特化したクラウドファンディングサービス「FAVOR」を活用。目標金額の15万円を超える16万3500円を集めた。



5W1HのデビューシングルCDを持つ青木さん(9月29日、5C棟で)

「TCCは本年度から正式な授業科目として実施される。永田学長は「授業科目としての具体的な内容は今後決めていく」と話した。

駅前で研究紹介 院生らが発表

若手研究者が自身の研究を分かりやすく説明する「駅前キャンパス2014」が8月の第1回土曜日(16日)に駅前で行われた。研究を身近に感じてもらおうと、つくば院生ネットワーク(TGN)が企画したもので、筑波大学の院生などが自身の研究を紹介。駅の利用者は足を止め、話に聞き入っていた。



気象変動について説明する研究員(8月16日、つくば駅で)

つくば市在住の女性は「気候変動の話聞いて、今後温暖化などの問題にどう行動すればよいか、考えてみたい機会になった」と話した。

「今より良く生きるにはどうすればいいかなどを、参加者の方に少しでも考えてもらえればうれしい」と語った。

小学生が100キロ完歩

小学4-6年生が4泊5日で取手市からつくば市まで歩き通す「第8回常総100キロ徒歩の旅」が8月5-9日に行われ、約180人が参加した。この企画は、子どもたちの体力などを育むとともに、学生スタッフのリーダーシップを養成することが主な目的で、今年で8回目。参加児童は約10人で1つの班を組み、連日30度を越える炎天下の中、学生スタッフや地域住民の力を借りてゴールを目指した。取手市役所を出発した子どもたちは、世界に引き込まれるの

ばよく有名な星を見つけ、指をさして後輩に教える。ナレーションの内容やBGMの選曲は、シナリオを作る時から何



9月20日にはファンとの対面イベント「進路相談会」で、CDの販売やライブなどを実施。今後は、イベントや楽曲制作などを積極的に行う予定だ。青木さんは「学生らしく、背伸びしない活動を続けていきたい」と語った。

街明かりの消えた午前2時。人々が寝静まったころ、学内で天体望遠鏡を覗く人影がある。天文研究会の活動の面々だ。天文研究会では、週に1度大学で星の観望を

天文研究会の活動は、世界に引き込まれるの

天文研究会

空を見上げ、宇宙を感じる

1度大学で星の観望をしよう。天体望遠鏡の扱い方や天体写真の撮影方法を学んでいる。会員は83人。文理問わず、さまざまな学類から星好きが集まる。会長の鈴木淳貴さん(物理3年)は「星や月などの天体の美しさが一番の魅力。季節によって観望できる天体も変わる。飽



投影機の調整をする会員(8月30日、栗原交流センターで)

め、月に一度は行われる一泊二日程度の遠征や長期休暇中の合宿など、泊まり込みの活動も魅力のひとつだ。つくば市の星空は、東京からの光

望遠鏡を覗きながら、星について語り合う仲間が天文研究会に集まる。夜通し星を見つめる間に、自然と生まれる絆。星と星がつながって星座ができるように、星は人と人をもつなげる素敵なものなのだろう。(大西美雨) 筑波大学学類1年 写真

Who's Who?

筑波大学社会貢献プロジェクト「つくバグ」の創設者

山口 芽衣 さん (持続環境2年)



休日も虫採りに勤しむ山口さん (9月29日、虹の広場で)

筑波大学社会貢献プロジェクトの一環として2010年から活動している「つくバグ」の創設者。小学生を対象に虫採りや昆虫標本作りなどを通して、虫についての知識や自然と触れ合うことの楽しさを教えている。

このでもいるような身近な昆虫だった。小学生の時はダンゴムシに夢中になり、学校帰りに両手いっぱい集めてはポケットや帽子に入れて持ち帰っていた。中学校では「虫に関しては誰にも負けたくない」という思いから、休み時間に虫を探って机の中で飼育し、常に昆虫図鑑を眺めていた。理科の先

生の影響でチョウに最も興味を持ち、先生と山梨県の山まで行き、見たこともないチョウを捕まえ、名前を教わった。「たぐさんの虫の名前を知っている、捕まえていることが喜びだった。ところが高校入学後、「虫の名前をたくさん知っているが、その虫が何を食べるのか、どんな暮らしをするのか、何も知らない。もっと知らなければ」と思い立った。近所の東京農工大の図書館に通い詰め、英語で書かれたチョウの論文を片々端からコピーし、辞書を引きつつ授業中に読みふけた。

やりたいことはすぐ行動へ 虫の魅力を広く伝える

高校2年生の時、高校の先生から「そんなに虫が好きなら何か形にしてみなさい」と言われ、チョウの翅の開き方と光の強さの関係を実験し、レポートで提出。先生に「もっと専門的な知識のある人に読んでもらえば」とアドバイスされ、ちょうど東京で開かれていた、チョウやガの研究者のシンポジウムに単身乗り込んだ。参加していた東京大の先生と国際基督教大(ICC)

の教授から「僕の研究室に来て実験をしてみよう」と誘われた。それから東大とICCに通って実験を続け、光の強さを調節できる専門的な機材を使い、どの程度の強さの光にチョウが反応するのか、正確な数値を計測。高校3年生の時に成果を学会で発表した。大学入学直後から松山茂講師(生環系)の研究室に入りし、精力的に研究を続け、つくば市で開かれるさまざまな分野の学会に参加した。1年生の時にチョウの翅の開き方と光の強さの関係性の実験を終え、その後は昆虫が食べ物を見分ける化学的仕組みについて研究している。ずっとチョウにこだわっていたが、大学入学後は昆虫全般の面白さがより分かってきたという。

大学3年生の時に「つくバグ」を発足。筑波大には昆虫を扱う研究室が多くあるが、その枠を越えて交流を行う機会はない。「虫好きが集まって何かできないだろうか」。その思いが発足のきっかけだ。虫好き仲間と話し合ひ、「虫の知識や魅力を発信し、多くの人と共有したい。もともとつくばの虫の会という名前だったが、より親しみやすくするため、虫を「バグ(虫の英語名)」と表記し、「つくば」とくっつけた「つくバグ」という名前になった。ともしば保護者が敬遠しがちな「虫好き」という個性。それを肯定し、将来偉大な虫の研究者になるかもしれない芽を育てる。そして虫好き仲間と出会い、虫の面白さを共有する。つくバグではそのような場を提供している。

「たぐさんが好き。だが、それを「好き」だけで終わらせずに、「好きだから」行動を起こしていく。その結果、「趣味」が「社会貢献」につながった。今後は昆虫だけでなく、さらに自分の興味を広げたいという。「やりたい」と思ったことはすぐ行動に起こせばいい。その精神で、これからも小さな興味から大きな行動を起こしていきたい。」 (油布知夏II人文学類2年、写真も)

編集後記

10月で本紙は40周年を迎えます。「筑波おろし」では記者としての奮いが記されていますが、一つ付け足していますが、一つ付け足すとすれば「マンネリの打破」でしょうか。執行代の創意工夫の結果でもありますが、マンネリへのささやかな対抗でもあります。新聞の自由とは批判の自由……自らに対しても批判的に反省を繰り返して、より良い紙面を目指していきます。(編集長・平嶋健人II社会学類3年)

次号は

11月4日(火)

発行予定です

フォーク村・TOJO 合同ライブ



ベースを弾く TOJO 会長の寺下さん (9月21日、松美池前で) = 原啓一郎撮影

3面へ

関東大学リーグ戦



ドリブルで仕掛ける中野誠也 (9月28日、早稲田大戦で) = 森脇慎撮影

8面へ

首都大学秋季1部リーグ戦



粘りの投球で5回を無失点に抑える西島 (9月14日、城西大戦で) = 鈴木拓也撮影

8面へ

常総100キロ徒歩の旅



30度を超える猛暑の中、三度笠をかぶりゴールを目指す小学生 (8月5日、取手市で) = 田中開撮影

11面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活